

八月六日の広島で

広島市立段原中学校 3年 布瀬 千絢

八月六日の広島の平和記念式典に、合唱団の一員として毎年参加してきた。コロナ禍は合唱が中止されていたが、今年は四年ぶりの参加だ。過去最多となる世界百ヵ国以上のお客様を迎え、元どおりの規模で式典が開催された。世界の平和を祈る歌を、仲間や会場の人たちと心をひとつに歌った。

朝九時に式典が終わると、次は「平和メッセンジャー」の活動だ。広島市内の中学生が三ヶ月前から集まって準備してきた平和の英語メッセージを、各国大使などに伝えるというプロジェクトで、私は、国連の食糧農業機関の女性と、中東地域の大使の男性と話した。私は来年の夏から交換留学に行く。将来国連で働きたいという夢があるので、行き先は国連の大きな事務所があるスイスを選んだ。だから、国連の人と会話できてとても嬉しかった。中東の大使も国連での勤務経験があり、「次は、国連と一緒に働こう」と言ってくれた。大使から「中東の社会や経済、文化についてなにか知っている？」と聞かれたが、私はほとんど知識がなかった。世界の人と互いを理解し合い、平和な地球にしたいと思っているのに、相手の国のことを知らないのはとても失礼だったと反省した。様々な国についてもっと知ることがこれからの課題だ。

午後からは、平和公園で、外国人観光客に平和メッセージのカードを渡した。猛暑なのに公園には人があふれ、資料館の入り口にも長蛇

の列。みんなが広島に関心をもってくれていることに胸がいっぱいになった。ある家族連れに話しかけると、「オウ！このあいだ会ったね！」と言われてびっくりした。先月このプロジェクトの準備中に会った、難民として来日しているご家族で、そのときは、母国の現状を、写真を見せながら説明してくれた。今もつらい思いをされていると思うが、平和公園で再会し、また笑って話すことができてよかった。ほかにも数人の旅行者と交流し、メッセンジャーの活動を終えた。修了書と、銅でできた折り鶴のオブジェを記念品にもらった。今日の喜びや新たな課題を忘れないよう、大切に飾ろうと思う。

夕方、再び合唱団で集合し、ある慰霊祭に参加した。当時、原爆犠牲者を懸命に救護した医師と看護師を慰霊する会だ。ここで歌った曲に、「人はこの星からいつかは去るが、いのちは継がれていく」というような歌詞があり、七十八年前に自らも被爆しながら多くの人を助けてくれた彼らがいたからこそ、現在の広島があるのだと改めて感じた。

過去、現在、そして未来の広島と世界について、思いをはせる一日になった。この日の広島には、平和を祈る気持ちがあふれていた。これからも、世界中の人と対話して、友達になり、多くの人と平和への祈りを共有していきたい。一日中活動し、汗だくになってとても疲れたが、それ以上にたくさんの学びがあり、自分の進んでいきたい道が一層明確になった。